

阪本家旧蔵本概要

1: 文書群番号	093002
2: 文書群名	阪本家旧蔵本
3: 出所	阪本家
4: 家業・役職等	近世：尼崎藩医／儒学者 近代：眼科医
5: 地名	摂津国川辺郡尼崎大物町／兵庫県川辺郡尼崎町／内尼崎町／尼崎市大物町
6: 行政区分	尼崎藩領／兵庫県第9区／尼崎町戸長役場／尼崎町／尼崎市
7: 歴史	阪本家は享保年間（1716～35）に阪本順庵が尼崎藩松平氏に仕官して以来、代々尼崎城下に居住し尼崎藩の医儒（医師と儒学者の兼帯）として藩学の教授にあたった。阪本家の学問は復古学派のうち荻生徂来の学派に属した。近代には泉氏曾祖父の準平氏が大物町で阪本眼科病院を開業した。祖父勝氏は尼崎市長（昭和26～29年）・兵庫県知事（同29～37年）をつとめた。
8: 伝来	昭和20年代に大覚寺長老岡本静心氏が『尼崎藩学史』執筆のため、阪本家から借用、以後同寺にて保存されてきた。静心氏死去の後、平成元年（1989）7月、大覚寺の依頼により史料館が保管するところとなった。大覚寺住職岡本静元氏・梅溪昇氏（阪本家菩提寺如来院出身）・史料館の協議の結果、同5年2月に阪本氏に史料の寄託または寄贈を依頼した。5月に阪本氏より寄贈。
9: 史料入手先	阪本泉氏（原蔵者）
10: 点数	129点（目録件数129件）
11: 年代	万治2年（1659）～大正11年（1922）
12: 構造と内容	本文書群は①阪本家の代々の当主によって執筆・記録・筆写された古書籍、および②復古学派を中心とする儒学関係著作からなる。①では、宣業（1747～1825）が学者としての基本的立場を著述した『学啓』（天明4（1784））のほか、宣業の父幸庵（1710～1781）が明和7（1770）から安永6（1777）の七年間に藩や阪本家のことを日記体に記した「坐隅漫筆」があり、当時の藩学の教授や修学の形態をうかがうことができる。②は荻生徂来の『大学解』や斎静斎の講義録「周官口授」等が含まれる。
13: 関連史料	史料紹介「阪本勝家旧蔵「坐隅漫筆」－近世中期、尼崎藩儒学者の日記」（『地域史研究』27-2 1998）
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	松迫寿代